

## ② いいの もり

むかし どのさまが、いわでの さとを たいそう きにい  
られ、川あそびかわを される ことになりまし  
た。

そこで、しょうやの うとうさんや 村の 人たちが くさもち  
を ついたり ごちそうを つくったり しました。

その よる、うとうさんが とじまりを しようとする  
と、うらのと口を たたく おとが しました。あけてみると、うつくし  
い むすめが たって いました。むすめは、

「おねがいです。どうか、あしたの どのさまの 川あそびは や  
めてください。」

と、いいました。うとうさんが、

「とんでもない。あしたの川あそびは どのさまも たいそう

たのしみに なされている。やめることは できません。」

と こたえると、むすめの 目<sup>め</sup>から、なみだが こぼれおちました。

「それより、どうして 川あそびを やめて ほしいのじゃ。」

と きいて みるのですが、

むすめは なく だけです。

どんなに なかれても、どう

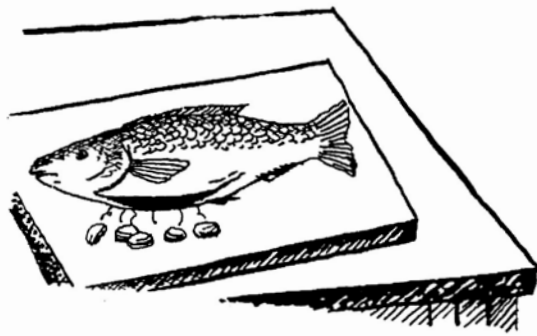
する ことも できません。

かわいそうに おもい、つい

てあった くさもちを むす

めに もたせて やりました。





よが あげ、きょうは 川あそびの 日ひです。  
さかなが つぎつぎに あみに かかり、とのさまも 大よろこ  
びです。

その ときです。びっくりする ほど 大おおきな こいが、あみに  
かかりました。やっとの おもいで ひきあげて、さっそく りよ  
うりする ことになりました。

大きな こいのおなかを あけると、中なかか  
ら くさもちが、二ふたつ 三みつつと ころげでまし  
た。うとうさんが、ハッと かおいろを かえ  
ました。そうです。目の まえの 大きな こ  
いは、きのうの うつくしい おすめ だっ  
たのです。



「こいのもり」のあたり

その ようすを 見て、どうしたのかと きく とのさまに、う  
とうさんは さくや からの できごとを もうしあげました。  
「そうか。わしも かわいそうな ことを したものじゃ。」  
とのさまは そう いわれると、ただちに こいの りょうりを

やめさせました。そして、こいが あ  
みに かつた ちかくの もりに、う  
めて やりました。

それから この ちい小さな もりは、  
「こいのもり」と よばれ、こいの す  
んでいた ところは 「こいのふち」と  
なづけられたと いうことです。